

R2年12月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
12月1日	12月5日	5日	尿路感染症	KT37.8℃の発熱 検尿：亜硝酸(2+)糖(2+) Dr聴診にて胸部音安定。 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓
12月1日	12月7日	7日	尿路感染症	KT39.2℃の発熱 検尿：亜硝酸(2+) 尿蛋白(2+)白血球(一) Dr聴診にて胸部音特に問題なし 尿路感染症の診断 抗生剤7日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 12/8夕よりクラリスロマイシ(200)2T/2×1 に変更し経過観察へ 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用
12月7日	12月13日	7日	尿路感染症	KT38.6℃の発熱 検尿：亜硝酸(+)白血球(+) Dr聴診にて胸部音特に問題なし 尿路感染症の診断 抗生剤7日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ
12月7日	12月13日	7日	肺炎	12/7 KT39.7℃の発熱 検尿：亜硝酸(+)白血球(+) Dr聴診にて両下肺野の呼吸音弱く喀痰貯留あり。肺炎の診断 抗生剤、鎮咳去痰剤7日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1

R2年11月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
11月6日	11月10日	5日	尿路感染症	KT38.2℃の発熱 検尿：亜硝酸(2+) 糖(2+) Dr聴診にて呼吸状態安定。 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓
11月19日	11月23日	5日	尿路感染症	KT36.2℃ 検尿：N(+) P(+) L(2+) 濃縮尿、少量の出血付着 Dr聴診にて呼吸状態安定。 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1
11月20日	11月26日	7日	尿路感染症	KT37.0℃ 検尿：N(2+) P(+) H(3+) 肉眼的血尿あり Dr聴診にて呼吸状態安定。 抗生剤7日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 トランサミンカプセル(250)3ケ / 3×1
11月1日	11月7日	7日	肺炎	KT38.8℃の発熱 検尿：亜硝酸(2+) 潜血(一) 尿蛋白(+) 白血球(一) Dr聴診にて肺ラ音著明ではないも肺炎(上気道感 染)の診断 抗生剤7日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ
11月15日	11月18日	4日	尿路感染症	KT38.8℃の発熱 検尿：亜硝酸(+) 白血球(±) Dr聴診にて心音、呼吸音共に やや弱め。尿路感染症の診断 抗生剤4日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ
11月20日	11月24日	5日	肺炎	KT38.2℃の発熱 検尿：亜硝酸(+) 白血球(±) Dr聴診にて呼吸音やや弱い 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察へ
				11/21よりKT38.5℃~39.8℃の発熱持続 抗生剤内服処方 ノルフロキサシ(100)3T/3×

11月21日	11月24日	4日	肺炎	にて経過観察していたが酸素化不良（SP02 85%）のため酸素吸入開始 BX-Pにて肺炎像の所見あり。発熱持続、酸素化安定得られない事から 11/24午後H.P ERに搬送。 肺炎の診断にて入院加療となる
--------	--------	----	----	---

R2年10月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
10月7日	10月11日	5日	肺炎	KT38.5℃の発熱 Dr聴診にて呼吸状態は 安定しているも肺炎の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓
10月6日	10月10日	5日	(肺炎)	KT38.9℃の発熱 検尿 亜硝酸(-)糖(-)潜血(-) 尿蛋白(+)白血球(-) Dr聴診 肺雑(-)であるが 肺炎(上気道感染)の診断 抗生剤5日間投与 経過観察へ ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用
10月6日	10月10日	5日	(肺炎)	KT38.1℃の発熱、嘔吐少量あり 検尿 亜硝酸(-)糖(-)潜血(-) 尿蛋白(-)白血球(-) Dr聴診にて肺雑(-)であるが 肺炎(上気道感染)の診断 抗生剤5日間投与 経過観察へ ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用
10月9日	10月15日	7日	尿路感染症	排尿後の違和感あり 検尿 亜硝酸(-)糖(-)潜血(-) 尿蛋白(-)白血球(-) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤7日間投与 経過観察へ ノルフロキサシ(100)3T/3×1

R2年9月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
9月20日	9月24日	5日	尿路感染症	KT37.9℃ 検尿白血球(3+)蛋白(+)潜血(+) Dr診察聴診にて胸部音問題なし 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与にて経過観察へ クラリスロマイシン(200)2T/2×1 KT38.0℃↑頓服：解熱剤アセトアミノフェン0.4g 9/23追加処方 高熱時プレドニゾロン(5)1ヶ 併用へ
9月6日	9月12日	7日	肺炎	KT39.0℃ 検尿蛋白(+)他異常なし Dr聴診にて軽微な肺雑(+)肺炎の診断 抗菌剤7日間投与 Rp)ルフロキサシン(100)3T3×N 熱発時アセトアミノフェン0.4頓用
9月6日	9月12日	7日	肺炎	KT39.0℃ 検尿蛋白(+)他異常なし Dr聴診にて軽微な肺雑(+)肺炎の診断 抗菌剤7日間投与 Rp)ルフロキサシン(100)3T3×N 熱発時アセトアミノフェン0.4頓用

R2年8月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
8月14日	8月18日	5日	肺炎	KT38.0℃ 一過性脳虚血発作様出現にて意識レベル低下するも直ぐに改善 咳嗽 (-) 食思不振 Dr診察聴診にて肺雑ないも肺炎の診断 抗生剤5日分投与 経過観察へ クラリスロマイシン(200)2T/2×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用
8月15日	8月19日	5日	尿路感染症	KT37.7℃ 検尿白血球(3+)蛋白(+)潜血(+) 自尿ない為導尿施行(2回) Dr診察聴診にて胸部音問題なし 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与にて経過観察へ ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓
8月25日	8月29日	5日	尿路感染症	KT40.3℃ 検尿亜硝酸(3+)蛋白(+)潜血(+) Dr 聴診にて胸部音特に問題なし 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与経過観察へ ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用
8月13日	8月17日	5日	肺炎	悪寒(+)KT38.6℃の発熱 喀痰あり吸痰施行 Dr聴診にて著明な肺雑はないも 肺炎の診断 抗菌剤5日間投与 経過観察へ ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用
8月16日	8月20日	5日	尿路感染症	KT37.7℃の発熱 検尿 亜硝酸(+) 尿蛋白(2+) 少量コアグラ認む Dr診察にて尿路感染症の診断 抗菌剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1
8月18日	8月24日	7日	带状疱疹	左下腹部から左腰部にかけてヘルペス状湿疹出現、水疱破れあり。疼痛なし。 Dr診察 带状疱疹の診断 患部に抗ウイルス剤ピダラビン軟膏塗布継続 7日間 抗ウイルス剤アシクロビル(250)10ml1A+ソルテム200m 1本 1回 /日点滴注射5日間施行

R2年7月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
7月3日	7月7日	5日	尿路感染症	KT37.7℃ 検尿施行 亜硝酸(+) 白血球(2+) 尿蛋白(+) Dr診察にて尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/日 3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用
7月25日	7月29日	5日	尿路感染症	KT38.0℃ オムツ内排尿あるも、検尿施行出来ず。 Dr診察聴診にて胸部音問題なし。呼吸器系 所見なし。尿路系による発熱疑いの診断 抗生剤5日間投与し経過観察へ ノルフロキサシ(100)3T/日 3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用
7月27日	7月31日	5日	尿路感染症	嘔吐症状あり。KT38.4℃ 尿汚染、淡血性尿、尿臭強し Dr診察 聴診にて呼吸音..心音共に問題なし 抗生剤5日間投与経過観察へ クラリスロマイシ(200)2T/日 2×1 解熱剤ボルタレン坐剤(25mg)1本頓用
7月9日	7月13日	5日	(肺炎)	KT37.9℃の発熱 胃液様嘔吐多量にあり。 検尿 亜硝酸(+)糖(-)潜血(-) 尿蛋白(±)白血球(+) Dr聴診 肺雑(-) 肺炎(上気道感染)の診断 抗生剤5日間投与 経過観察へ ノルフロキサシ(100)3T/3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用
7月22日	7月26日	5日	尿路感染症	KT38.2℃の発熱 痰がらみあり 検尿 亜硝酸(2+)糖(-)潜血(-) 尿蛋白(-)白血球(+) Dr診察聴診にて肺雑(-) 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 経過観察へ

R2年6月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
6月3日	6月5日	2日	肺炎	KT37.8℃～KT37.2℃ ～ 微熱持続、喀痰、咳嗽（－） 呼吸器内科受診し、肺癌疑いある。 聴診にて左下葉の呼吸音やや弱い。 肺炎の診断。抗生剤2日間投与にて 一旦終了し経過観察へ。 クラリスロマイシン(200) 2T/日 2×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g 頓
6月17日	6月22日	5日	肺炎	湿性咳嗽、喀痰、顔面紅潮、 KT39.0℃～37℃台 検尿亜硝酸（2+） 吸痰処置適宜施行 Dr聴診にて肺炎の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/日 3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g 頓
6月10日	6月14日	5日	上気道感染	KT39.0℃の発熱 検尿亜硝酸（－）糖（－） 蛋白（±） Dr聴診 咽頭有切（はな）も咽炎（上気道感染）の 診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/日 解熱剤アセトアミノフェン0.4g 頓用
6月22日	6月26日	5日	尿路感染症	KT39.4℃ 発熱悪寒戦慄（+） 検尿、亜硝酸（2+）潜血（+） 尿蛋白（－）白血球（2+） Dr診察 胸部音は特に問題なし。尿汚染（+）にて 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/日 解熱剤アセトアミノフェン0.4g 頓用